

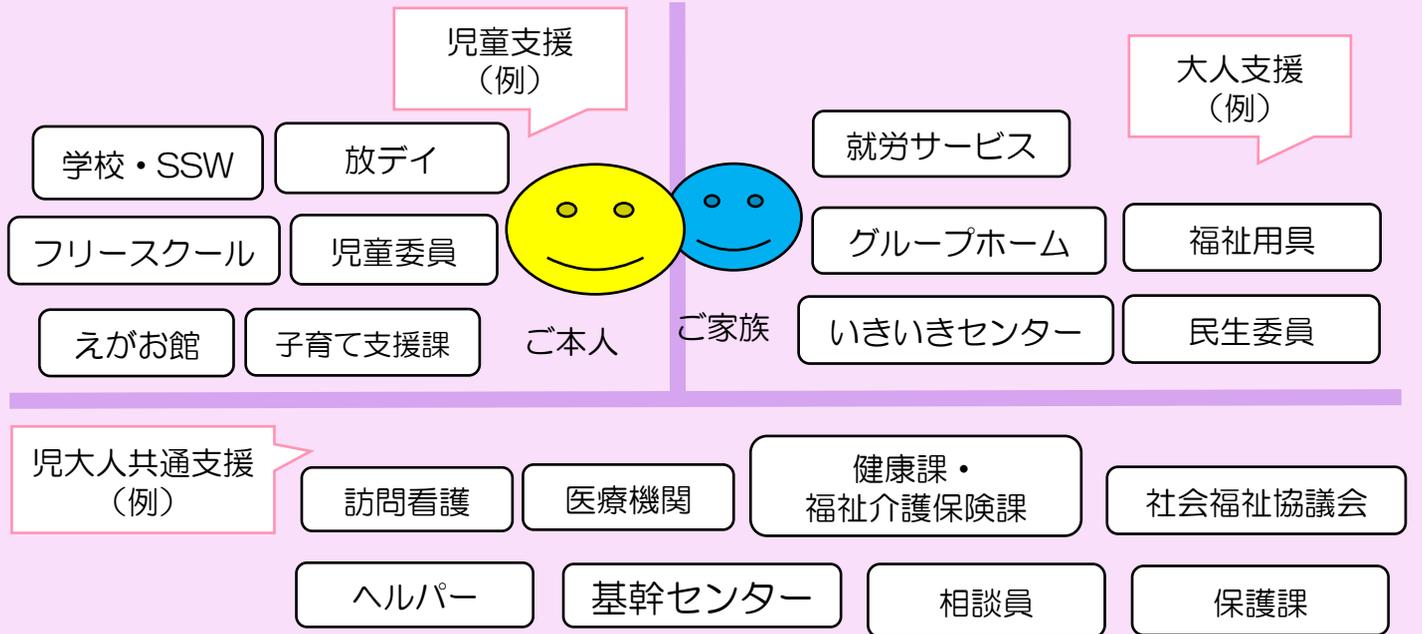
チームHAKATA便

Vol.03



基幹センターについて

それぞれの関係機関がご本人支援（ご家族支援含む）の為に
ご本人に繋がっています。基幹センターは、障がいのある方に関するご相談の第一次窓口としての役割に加え、ご本人ご家族はもちろん各関係機関とも繋がりを持ち、関係機関同士が情報共有をし支援方針を合わせて動けるようチーム作りをサポートする役割も担っています。



→ 相談員さんが動きづらい部分をフォローアップする役割もあります。

基幹センターのネットワーク活動について

博多っ子★未来NW：障害のある児童に関わる支援者が対象。学校、放課後等デイサービス、子育て支援課、フリースクール、塾、地域などの支援者を‘つなぐ’を目的としています。

はかた暮らしNW：障害のある方の地域生活を支える支援者が対象。ヘルパー、生活介護、短期入所、グループホーム、相談支援専門員などの支援者と、地域生活支援での課題を検討しています。

精神保健福祉NW：精神疾患のある方に関わる支援者が対象としたNW。精神科病院、訪問看護、作業所、ヘルパーなどの支援者と、精神疾患に関する講義や制度、チーム支援などについて意見交換を行っています。

相談支援NW：相談支援専門員が対象。サービスに関する計画書や相談者への対応など専門員としてのスキルアップや情報交換の場づくりを行っています。

※NW=ネットワーク会議



相談傾向について

今年度（令和3年4月～6月）の当センターへの新規の相談は57件ありました。相談内容は福祉サービスについての相談が16件と一番多く、次に医療10件、就労9件、家族全体に関わる相談が7件、介護保険、療育、住まいの相談が5件ずつとなっております。相談者は本人からの相談が一番多く、次に家族や福祉サービス事業所となっております。いきいきセンターからの相談も全体の約1割を占めています。障がい種別では精神障がいが一番多く、半数以上を占め、次に身体障がい、発達障がいと知的障がい、難病の順でした。年代は20代30代が一番多く、次に40代50代が多かったです。65歳以上の相談もあっており、最高齢は81歳でした。

相談内容



- 福祉サービスについて
- 医療について
- 就労について
- 家族の事
- 介護保険
- 療育
- 住まいの相談

事業の紹介「住まいサポートふくおか」

※R3年4月から障がい者も事業対象となりました

「住まいサポートふくおか」とは、65歳以上の方と障がいのある方が対象者で福岡市社会福祉協議会が、不動産事業者と連携し、民間賃貸住宅への住み替えや、入居後の生活支援などをサポートしています。

(お問い合わせ先) 福岡市社会福祉協議会
住まい・まちづくりセンターTEL092-720-5356

対応事例「ひきこもり」・・・親の死去から転居へ (40代 男性のケース)

20歳頃に仕事を辞め、直後に父親が死去、その後再就職せず自宅に「ひきこもり」の状態となり、母親との2人暮らしが20数年続いた。

生計は母親の年金で立てていたが、母親が末期癌と診断され介護が必要な状態となり、ケアマネジャーが介入して本人の「ひきこもり」が明らかとなった。

この間、極度の生活困窮に陥り生活保護を申請、数か月後に母親は死去、家賃が高額のため転居が必要となり、ケアマネジャーから障がい者基幹相談支援センター(以下「センター」)を通じて、住まいサポートふくおか(以下「住まい」)活用の相談があった。

自宅をセンタースタッフと住まいスタッフが訪問して、本人と面接を行った。

住まいスタッフが居住支援法人を通じて転居先を探す一方で、センタースタッフは在宅サービスなどの調整、医療機関の受診支援、家賃滞納の問題などの「法テラス」への相談といった、本人の抱える課題に対応した。約2ヵ月後、転居先が決まり、無事に転居が完了した。定期的に医療機関を受診しながら、訪問看護の支援を受け、在宅生活を継続している。



障がい福祉サービスの紹介「グループホーム」

「グループホーム(共同生活援助)」とは、障がい者が地域で自立した生活を送れるよう訓練を受けられる住まいの場です。一軒家の中で部屋が分かれるシェアタイプとアパート等を活用したワンルームタイプがあります。

7月に開所したばかりの2つのグループホームをご紹介します。

グループホームten 千代 アパートタイプ

福岡市博多区千代4丁目20-27 luxury BOX
※ベッド、TV、トイレ、シャワー室、電子レンジ、冷蔵庫と備品が充実して身一つで入居できます。



グループホーム野風 シェアタイプ

福岡市南区大橋4丁目18-9
※定員4名のアットホームな雰囲気や手作りの食事が魅力です。

